

八
月
踊

朝
仁
青
年
団

昭和四十八年

八月編集

団長

荒田末彦

副団長

都苗俊春

〃

山崎成昭

副団長

有馬昭子

〃

井川和代

會計

篤輝乃

書記

重原美加代

森 浜子

井川若子

平田清美

ゐ

り

唄

ハレーゐしゆて唄しれば

ハレもだるさやしぎや

(節) ハレオーセーオーセー

デイわきや振り立てて

イーヤーハレみいてでふらそ

ヤーレヨー音頭

デイわきや振り立てて

イーヤーハレみいてでふらそ

ヤーレヨー音頭

あ

ら

び

け

へおじよむじよむあみされ

ものしられヤシギヤ

ハレモラブ 男 ヨイオセマタ
女 わきやよらて

あしびがきようた

ハレヨー音頭ハレー

あしびがきようた。

へこん殿地ぬ家や庭広さ

ヤシギヤー。

ハレお庭 男 ヨイオセマタ
女 片はしち

いわておせろ、ハレヨー音頭ハレー

いわておせろ。

へお庭片はしに、さみそれなれば

ハレさみそれ ハイオセマタ

雪ぬまぐむハレヨー音頭ハレー

今

の

踊

り

〜今の踊り子は踊り子がそろて

ソラそろて

うちにだんごして

この舞いなりゆり。

〜さんでまけまけ

ドコデダネうるし

ソラうるし

そだててそのヤセさかな

ヨイコラサ ヨイコラサ

花そらヨーシダンスアノー

みきとほがねく

み里大金久ヨイヨイ。

杉の橋かける

うれがこげれば にやうとるさぬ

しゅんかねくわ

しゅんかねくわぬほしや

若くなてイおせろ三味線もち

イモレちきておせろ

サーサ しゅんかねくわ

三味線もち イモレちきておせろ

サーサ しゅんかねくわ

赤木名かんのんじ。

赤木名かんのんじ伊津部かち

なおそ



なあ おとばかり。

い波なあじきやま

ワラブ

い波なあじきやま童

あじなれど

なが殿地ぬ庭なんお草

めなさめて

ドコロ

湊さくさすくぬしで処

うれば取りが行きゆりちよ

手さつてよもぞなむん

クラ

浜ながし行きば、すくぬ子ぬ

ちやぼれ網さだぬねだナ。

わーくと又かきゆり。

ひきやわんごぶきら

ヨーヨハレひきやわんごまら

水くがれとて

ハレうすくがれとてイ

やまだくひらだ

ましきやな

ましきやなや大和旅しておて

うれがまちじよカナや

ぐしゆじかし石枕

フリーキッズ

ふーもらふや じふちきぬたばいよ
またもハレ じふちきしハサー ちちら
たばく。

西ぬ実久

西ぬ実久なんて、大和船われにしや

うりとり $\left\langle \right.$ うかぬとむら

西ぬ中はらしゆやはじき入れて

中はら

うれがしゆにるやくや

さわいくにとられて

さわいくつシヨヤ 大和

アチジヨカナヤ 大島

クルシユ フザムテイ

思い 思い クチシヤ

チヨイト踊り

今の踊りや、踊り子が

チヨイトそろた

内にダンゴすて アイヤ

チヨイトすたる。

なさけあれこれ チヨイトや

うららとみ

うららとみや うらとみ
いきやしいが 踊るりゆ

うにぎり はぎ たてて
左もも さどてい

上ア
ガ
ん
村

へ上ん村 アカクワ

雪村のはじき木アンムぬ

ヨーアカクワ

アマダサガラ

アマダサガラ 魚イユがマチハレ

マヤの目ハウぬ だるさ ハレ

一、八月ぬ節セツやより□り□りわきや二十頃やナいちが□る

一、わきや二十頃やユぬくれどまちゆるいちが夜ぬくれて吾恋人カナみりゆり

一、わかな見りぶさや吾胸ドクやさぬなりゆりさねてもなきやおがみぶさやしぎや

一、おがむばど知りゆりおがまだナ知らぬおがで面影やまさてたちゆり

一、面影ぬ立てば泣きゆがりやするな泣きば面影やまさてたちゆり

一、面影と犬や連れてやいきやらん面影や残し犬や連れる

一、せちとしばさしや七日ふざめきもさげぬ恋人カナやぬばがふざめ

一、今日ケブや夜ぬ暮れていきやなげがなりゆるなまいもらんばわないちが□り

一、今日ぬほこらしややいちよりもまさりいちもこの如にあらしたばれ

一、なあうたあらさげてわうたあらさげてゆさり夜やあそでおせろ

一、明日ぬほこらしやきやしがするゆさり夜やあそでおせろ

一、遊で夜ぬ浅さ夜中ちば夜中夜中思えナア夜ぬ明きゆり

一、とりのうたうましナー夜ぬ明けらましとりの歌うばどナー夜ぬ明きゆり

一、一番どりくわばどナー二番どりち思てきもさげぬ恋人ば夜中□し

一、きもさげぬ恋人が云さるいぬチネ続きなぬがきじぬみねうらばきやしゆり

一、きじぬねばなとてなしか声クイきかしいちやぬかれらんはくりくりきやしゆり

一、ナーくりくりきやしゆりくりきやしゆりいばや道たもそ吾家ぬくさびしり

- 一、吾家ぬくさばしりちごられかむて忍でいもれ
- 一、おもさむぬカナサや集うばどかなさ道ちれぬカナサや連ればどかなさ
- 一、ナ唄あらさげて吾唄あらさげてゆさり夜やあそでおせろ
- 一、ゆさり夜や遊しでおせろ あさぬほころさやきやしがる
- 一、なきやはそむならぬ わきやがそむあらぬけさぬ親ほじぬしき
- 一、けさぬ親ほじぬしまたてぬわさ恋人がしまわしままぎりわかて
- 一、恋人がしまわしままぎりわかさねてナ一夜ぬくれてくれてにしきとりゆり
- 一、しぬき生島に吾が落す目泪ちよほどぬ里や知らせばどしりゆり
- 一、ちよほどぬ里や知らせばどしりゆり知らさだなしちゆてしりやならぬ
- 一、近くゆら橋やおいやあやてめそしそやいそだたみしそぬきよらさ
- 一、しそだたみにふしがねこば立ててうりが前ちきてしゆたる情
- 一、あらさげてなきやとあしほやまとめばぬきゆりやまとめば近くなりゆり
- 一、これ程ぬ踊り組立ててからや夜ぬ明けててだぬ上るまで
- 一、打てば打ちぶさりゆなりする鼓なりチヂミばゆりぶさや里がおそば
- 一、おそばゆてからやそだしゆりまさり後かるがるいもりそしら
- 一、いもればもおよう戻ればもおよういもる先々におよう召それ
- 一、おようする中に中じろばあしてそれが舞いつけてすたる情
- 一、大和旅すれば月の出どまちゆるぐしゆがたりしればぬぬでまちゆり
- 一、夜明け白雲や凡ちれていきゆりわぬやたるちれりゆり恋人どちりゆり

- 一、夜明け白雲ぬ生き別れ見れば里と生き別れあれが／＼如に
- 一、白雲ぬあてどおぼる月やてりゆりさまたげぬあてど恋人どぬさり
- 一、天ぬ白雲ち橋やかけなんおよばん恋人ち手やかけならん
- 一、殿地あみされやかふなまれしぎやゐりぐらや前ヤなしトクやくさて
- 一、今日ぬほこらしや何時イチよりもまさりいちも今日の如にあらし給れ
- 一、何時イチもも今日ぬ如にあれば玉黄金寄ていきゆる年も若くなりゆり
- 一、年や寄たりとも若さまち心 何時も忘れらぬ十七・八
- 一、十七・八頃や夜ぬ暮れど待ちゆる何時が夜ぬくれて吾自由カテなりゆか
- 一、夜ぬくれとつれて立ちゆる面影や命はら／＼と切れる如に
- 一、面影ぬたてば言沙汰イサタしゆりと思へ胸ぬ騒くめば泣きしゆりと思へ
- 一、面影ぬたてば泣きがりやするななきば面影やまさて立ちゆり
- 一、面影と緑とちれて行□らぬ面影や残し緑やちれる
- 一、今日ぬほこらしや物にたとへれば天ぬ白雲ば取たる如に
- 一、白雲やまさり凡ちれていきゆり吾ワスや加那ちれて行きやぬしのき
- 一、夜明け白雲ぬ生別イキれ見れば加那と生き別れあれが如に
- 一、天ぬ白雲ち橋やかけならぬ及ばぬ加那に手かけならぬ

一、 思て自由ならぬ水中ぬお月手にや取らつじぢぶす

一、 え程に思て思はじになれば思て眞実マコトやいらぬやしぎや

一、 思てさえ居れば後前アトサキとなりゆる節や水車めぐり会ゆり

一、 節まはすすれば互タテにに年ゆりゆり年やらぬ中にまはしたぼれ

一、 幾ち比べても気ぬ毒となりゆるえに似る花ひともと無らぬ

一、 えど元なりゆる梢スラぬえならぬ梢ぬえなりゆし根なしかじら

一、 汝ナンと吾ワタとや茅原ぬカネグねてやいたんても人チユぬ知らぬ

一、 かなげ押しかくし今イマに他人ヨソ知れてきじつきぬ吾身ワタシやみがきぐるしや

一、 さても玉黄金いらぬ心配シワするなそよにかかはりゆるキジやあらぬ

一、 夜中三ツ星や見□や□にやをらぬ吾めがかなしので□で見□やる

一、 夜はらしゆ舟やかくれ礁どかたきカナ待ちゆる夜やドシとかたき

一、 側戸ソバヤドあけてカナ待ちゆる夜や夜嵐やしげく吾里や見らぬ

一、 ゆぶぬ夜嵐にしぶしぶとぬれてあがる眞マてだに干し戻フる

一、 袷綿ニホヒぎんち香移し給れ歩き先々ちとぎにしやおろ

一、 ね座敷に残るカナが面影や朝夕息ぬかん月尻さがて

一、忍ぶ山道に骨や散らすとも肌染たるカナや忘れならぬ

一、忍ぶ山道ぬ二つあ□□ましぬよてよそ□れて百名立つか節かわ□

一、百名立つ事や白浜ぬ真砂マサユカナモモ拝む事や月に一度

一、白浜ぬ真砂マサユ月どまぎらしゆる吾心キモまぎらしゆしカナどやゆる